

「それは、何だね。」

「実は、今まで調べてきた農業のことを、本にして書き残しておきたいと思うのですが。調べただけではなく、ためしてみたことも、昔からのいい伝えや、お年寄りから聞いたことなどもまとめて、一さつの本にして、子孫しそんに書き残しておきたいのです。そうすれば、この村の人々だけでなく、会津ぜんたいの村の人々に役立つと思うのです。」

「ふうん。昔から歌や物語、歴史などの本はあるが、農業の本は、聞いたこととはいいな。」

和尚さんは、帳面をばらばらとめくって、すぐれた研究に驚きました。

「おもしろい。ぜひ、やってみなさい。」

与次右衛門は、和尚さんのはげましのことばに、ふるいたつ思いがしてきました。帰り道、冬の夜空に、月がはりついたように、見おろしていました。